

蛙になれ

むかし〜一人のけちんぼうが居りました、お女房さんにも知らせない様にして毎日錢を一錢二錢づゝ竹筒に入れては確りと口をして、押入れの奥に隠して置きました。夫でも、ひよつとかして、人に見付けられでもしては大變と思ひましたから、いつも錢を
 人が見たら蛙になれ、巳が見たら錢になれ
 といつて口をして居りました。
 すると、何時か女房さんが、其言つてゐる所を、そつと見付けました。そして丁度、お金の入用の時でしたから、けちんぼうの亭主が出て行つた後で、そつと、其竹筒の中からお錢を悉皆取り出して仕舞ひましたが、平素から氣輕な性質でしたから、一番戲つてやらうと思つて、錢を取り出した後へ

蛙の子を一匹入れて、元の様にちやんと口をして置きました。

暫くすると、この亭主は外から歸つて来て、竹筒の中の錢がちやんとして居るかどかと思つて、一人で以てそつと口を取つて見た所が、思ひもよらず、蛙が一匹飛び出して來ましたので、
 狼狽てまいことか

「こりやく〜人違ひしてはいかぬ、おれじやないかおれじやないか」
 と申しましたとさ。

第五卷第六號懸賞考へ物

解答者及び受賞者披露

題

(1) 十六を三分して我國名 石見(五、八、三)

- (2) 二十を三分して我國名 因幡(五、七八)
- (3) 九を二分して我國名 伊豫(五、四)
- (4) 十三を二分して我國島名 佐渡(三、十)
- (5) 二十三を三分して我國名 遠江(十、十、三)

解答者

◎第 壹番	東京市	増田しげ子
○第 貳番	東京市	宮邊富子
○第 參番	大坂市	吉田順
○第 肆番	東京市	尺秀實
◎第 伍番	名古屋	石川つね
◎第 陸番	富山市	上野浪子
◎第 柒番	山梨縣	篠原行惠
◎第 捌番	甲斐縣	杉野義男
◎第 玖番	能登郡	坂本タツ
◎第 拾番	三河郡	加納哲夫
◎第 拾壹番	大阪市	野田惠子
◎第 拾貳番	石川縣	濱田フユ
◎第 拾參番	播磨縣	齋藤義夫
◎第 拾肆番	富山市	武田八重子
◎第 拾伍番	大坂市	松田とよ子
◎第 拾陸番	陸前國	松浦かめよ

◎第 十七番	水戸市	大森みえ
◎第 十八番	丹波國	森田みね子
◎第 十九番	東京市	稻葉美知子
◎第 二十番	佐賀縣	辻雪子
◎第 廿一番	伊豫國	大平忠通
◎第 廿二番	佐賀縣	南里のり
◎第 廿三番	長野縣	宮崎けさむ
◎第 廿四番	和歌山縣	上野てい子
◎第 廿五番	福島縣	佐藤俊雄
◎第 廿六番	長野縣	熊谷春男
◎第 廿七番	福島縣	椎名省子
◎第 廿八番	大坂市	吉田はた子
◎第 廿九番	備前國	藤原比奈
◎第 三十番	三河國	中條千鶴
◎第 卅一番	大坂市	矢野文子

右◎○圈點の附けてある御方には「高等ふみのかきぶり壹部」と金五拾錢の小爲替證壹枚づつ

○圈點第參番第拾參番第廿參番第參拾壹番の御方には雜誌壹部づつ

◎第七番第拾七番第廿七番の御方には日露讀本一

部づつ差し送りました。

景品金高六圓參拾六錢

内譯

金參圓五拾錢

金五拾錢小爲替證書七枚

金貳圓拾錢

文のかさぶり七部

金四拾錢

雜誌四部

金參拾六錢

日露戰爭讀本參部

外に景品送附料小爲替手数料金は皆様から戴いた郵券で拂ひました餘金はフレール會に寄附

いたしました

解答者が少くて遺憾でありました然し景品は御約束通りよりは多くいたしました解答してくださつた御方様に厚く御禮申し上げます

以上

三河國西加茂郡筋生村字黒笹

近藤登喜子

狐と虎

狐と虎と出遭つて、どつちが豪いといふ議論が始まりました。狐は「虎さん何といつたつて、僕の方が豪いよ、其證據を見せるから、今から、僕の後についてきてごらんさい、」といひますと、虎は「それじゃ一所に行つて見よう」といふので、狐の後について行きました。すると野山の獸どもは、四方八方に逃げ散つて行きます。狐は後向いて、虎さん、どうだ僕の威勢は豪いものだらう」といひますと、虎は「なる程」といつて感心しました。併し、皆の怖がつたのは、實は狐でなくて後について居た虎であつたのを虎自身では知らなかつたのです。